

令和4年12月1日発行 第8号

学校教育目標「認めあう」

●志 抱いて 学びあい ●豊かな心で 思いあい ●元気にスポーツ 鍛えあい



二中だより

松伏町立松伏第二中学校

〒343-0115 北葛飾郡松伏町上赤岩 711

<http://matsubushi.ed.jp/matu2tyu/>

TEL 992-0051

発行責任者 校長 渡邊 康弘



キャリア教育



校長 渡邊 康弘

8月から始まった2学期も12月になるとめっきり冬の様相となり、3年生は中学校卒業後の進路、1、2年生は来月のスキー教室に向けて取り組みを行っています。今月は進路について述べていきます。

まず、埼玉県の中学校卒業後の進路はどのようになっているのでしょうか。令和4年3月の卒業生は、過去最高同率で99.1%が高等学校に進学しました。その中で通信制への進学率が5.5%で、前年度より0.6ポイント上昇しました。では、今年の埼玉県中学3年生の進路希望状況を見てみると、全日制の普通科を希望する生徒が多く、全体で1.28倍となっています。逆に、専門学科は工業科0.88、商業科0.69倍と定員割れの状況です。

続いて、高等学校卒業後の進路はどうでしょう。同じく令和4年3月の卒業生は、大学に進学した生徒が63.4%となり、過去最高となりました。大学進学者の94.6%は現役で、浪人した生徒は5.4%でした。また、就職した生徒は11.3%で過去最低の割合となりました。調査を取り始めた昭和54年には大学進学が23.8%、就職が42.7%ですから、大きな変化です。

このような状況において、高等学校進学だけでなく、生徒の将来のためにキャリア教育が求められるようになってきたわけです。背景には、学校から社会への移行における課題として、社会環境・求人状況の変化、求職希望者と求人との不適合、雇用システムの変化があり、若者自身の資質、勤労観・職業観の未熟さ等もあげられます。また、生徒の生活・意識の変容として、身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向、生活体験・社会体験等の不足、職業の選択・決定を先送りにする傾向、将来計画が希薄なまま就職する者の増加があげられます。

いまだに新型コロナが収束しない中ではありますが、このような日本の社会情勢を踏まえて、社会体験チャレンジ事業は生徒の将来にとって、学校ではできない貴重な体験活動となります。いまだに他市町の学校においては実施されていないようですが、松伏町では出来る限り実施したいと準備をすすめ、11月に松伏2校とも2年生が地域の協力のもと職業体験を行うことが出来ました。生徒の受け入れを快く受けていただいた事業所には本当に感謝いたします。生徒は「楽しかった」「結構大変だった」「貴重な体験が出来た」などの感想を述べていました。また、事業所からは「元気にあいさつできますね」「よく働きます」「素直でいい生徒ですね」「来年も来てください」とお褒めの言葉をたくさんいただきました。今後も学校内での様々な活動、社会体験活動等とおして生徒を大きく育てていきたいと思ひます。